

倉橋地区まちづくり計画書



平成 31 年 3 月

宝島くらはしまちづくり協議会

目 次

1	まちづくり計画の改定にあたって	1
2	概 要	1
3	現 状	3
4	将 来 像	5
5	計画の期間	5
6	基本方針と具体的事業	5
7	課 題	9
8	終わりに	10



くらしやすい地域をめざして



らっかんてきな気持ちで



はつらつと毎日をすごすことができ



しあわせをみんなで実感する

倉橋のまちづくり

1 まちづくり計画の改定にあたって

倉橋地区のまちづくり計画は平成21年3月に策定し、10年間を計画期間として取り組んできました。現在、その10年が経過し、策定時から比較すると、人口減少や高齢化が進み、社会状況も大きく変化しています。そこで、現在発生している新たな課題を見つけながら、その解決をめざし、未来の子どもたちに、個性豊かなこの地域を引き継いでゆくために、まちづくり計画の見直しを行います。

2 倉橋地区の概要

(1) まちの地勢

①位置

広島県最南端の瀬戸内海に浮かぶ
倉橋島（※1）の中部及び南部（※2）
面積54.5平方キロ 周囲65キロ
（ほとんど海岸線）



（※1） 瀬戸内海では、淡路島、小豆島、屋代島（周防大島）、能美島に続いて5番目の大きさ（能美島3分割の場合は4番目）

（※2） 島全体で69.5平方キロ、そのうち8割近くを占める
（残りは音戸町）

②内容

- 気候は温暖であり、降水量も比較的少ない。
- 瀬戸内海の島特有の急傾斜地のため（平坦地が少ない）入り江に面したわずかな平地に集落がある。
- 明治時代、島北部の呉に「軍港」が設置されて、島全体は呉に対して要塞化された。そのため道路整備が遅れた。
- 町制時代は、町の木「ネズ」町の花「ヤマザクラ」町の鳥「ウグイス」
- 倉橋島村施行から合併までの116年間一度も合併を行っていないため、大字は存在しないが、16の地区名（浦名※3）が使われている。
- （※3） 区（現在自治会）は23区
本浦は「オノ木・松原・上河内・小林・石原」の5区
室尾は「室尾西・室尾東」の2区
鹿島は「鹿島上・鹿島中・鹿島下」の3区



(2) まちの沿革（主に戦後）

①変遷

- 1889（明治22）年 安芸郡倉橋島村成立
- 1952（昭和27）年 安芸郡倉橋町（町制施行）
- 2005（平成17）年 呉市と合併（編入）呉市倉橋町

②バス（公共交通）

- 1955（昭和30）年 本浦まで運行開始（呉市営バス）

- 1959（昭和34）年 室尾まで運行開始（ㄥ）
- 1965（昭和40）年 鹿老渡まで運行開始（ㄥ）
- 1972（昭和47）年 本浦～大向間町営バス運行開始

③橋梁

- 1961（昭和36）年 音戸の瀬戸へ「音戸大橋」本土と
- 1973（昭和48）年 早瀬の瀬戸へ「早瀬大橋」能美島と
- 1975（昭和50）年 「鹿島大橋」島がひとつに
- 2013（平成25）年 「第二音戸大橋」音戸地区の渋滞緩和

④隧道

- 1949（昭和24）年 納隧道開通
- 1959（昭和34）年 桂浜隧道開通
- 1968（昭和43）年 赤石隧道開通
- 1995（平成7）年 宇和木トンネル開通



⑤小学校

- 戦後は、小学校数 14校（※4）
 - ・1968（昭和43）年「海越小学校」閉校
 - ・1981（昭和56）年「大迫小学校」閉校
 - ・1987（昭和62）年「大向小学校」閉校
 - ・1997（平成9）年「西宇土・重生・鹿老渡」3小学校閉校
 - ・1998（平成10）年「長谷小学校」閉校
 - ・2002（平成14）年「鹿島小学校」閉校
 - ・2003（平成15）年「須川小学校」閉校
 - ・2005（平成17）年「宇和木小学校」閉校
 - ・2013（平成25）年「倉橋・尾立・倉橋東」3小学校閉校
→『倉橋学園 倉橋小学校』へ統合
- 現在は「明德」「倉橋」の2校
（※4） 倉橋小学校横島分校（倉橋小学校に含む）
1950（昭和25）年開校～1965（昭和40）年閉校

⑥中学校

- 戦後は、中学校数 9校（分校5を含む）
 - ・1965（昭和40）年「倉橋西中学校横島分校」閉校
 - ・1970（昭和45）年「明德中学校重生分校」
「倉橋東中学校大迫分校」2分校閉校
 - ・1974（昭和49）年「倉橋西中学校大向分校」閉校
 - ・1978（昭和53）年「倉橋西中学校須川分校」閉校
 - ・1987（昭和62）年「鹿島中学校」閉校
 - ・2013（平成25）年「倉橋西・倉橋東」2中学校閉校
→『倉橋学園 倉橋中学校』へ統合
- 現在は「明德」「倉橋」の2校

(3) まちの現在

①世帯数と人口（平成30年3月現在、住民基本台帳による）

2,933世帯 5,346人（男2,533人 女2,813人）

※65歳以上 2,684人（高齢化率 50.2%）

※18歳未満 346人（10年前 720人）

②郵便番号

737-1377

（かつて上記の区ごとに番号が異なっていたが現在統一）

③電話番号（局番）

0823-56-〇〇〇〇（北部）

53-〇〇〇〇（西部）

54-〇〇〇〇（東部）



④主要産業

農業と水産業

ミカン・大根・トマト／いりこ・牡蠣・ちりめん 等

3 倉橋地区の現状

(1) まちの長所

①自然

倉橋町は地区内の中央部、東部、南部に瀬戸内海国立公園の指定地域があり、その中でも、火山（ひやま）、桂浜、亀ヶ首、鹿老渡など、四季を問わない風光明媚な景観や、渚百選や白砂青松百選に選ばれた桂浜をはじめとする海岸など美しい自然がある。

②気候

広島県の最南端で瀬戸内式気候であり、梅雨を除き1年を通して雨量は少なく、温暖である。降雪もほとんどなく、過ごしやすい。

③歴史と文化

過去には「長門島」と呼ばれ、奈良時代の遣唐使船、江戸時代からの管絃祭の御座船、木造船など造船の島としての歴史や、明治からの御影石の採石、呉の軍港化に伴う要塞地域など、太古の昔から様々な歴史とそれに伴う文化が存在する。

特に造船では「尾道千軒」「倉橋千軒」「宮島千軒」と言われたほどの繁栄ぶりであった。



④施設

平成10年に図書館、公民館、温泉館などの複合施設として「桂浜ふれあいセンター」がオープンし、更に平成15年には温水プール「ウイングくらはし」が建設され、周囲の「長門の造船歴史館」「歴史民俗資料館」「倉橋体育館」を含め、町民や観光客の交流拠点となっている。

また、町内は16の地区に分かれており、各地区には、社会教育施設、老人集会所、生活改善センター、コミュニティホームなど地域住民の拠点施設も充実している。

⑤特産物

農産物では、お宝トマト（ハウス桃太郎）やいしじみかんなどの育成、ブランド化に力を入れており、水産物では、ちりめん（ちりめんじゃこ）や他地区同様の牡蠣が特産物として挙げられる。

また、国会議事堂にも使用された御影石（花崗岩）も伝統のある特産物である。



(2) まちの短所

①過疎化, 高齢化, 少子化

倉橋地区のみならず、市全体あるいは国全体の課題であるが、この地区も少子高齢化が進み、高齢化率（65歳以上）は現在5割を超えている。さらに、町全体の人口も、合併時（平成17年）は7,300人だったものが、現在5,300人と15年間で2,000人減少し、着実に過疎化が進んでいる。

②道路網

昭和36年の音戸大橋の開通にはじまり、平成25年の第二音戸大橋の開通により、道路の利便性は向上したが、依然として町内の主要道路（4本の県道等）は整備が遅れ、狭隘で、迂回路もなく、特に災害時には孤立化する地区も存在する。

③公共交通

倉橋地区におけるバス路線は、現在「広島電鉄」が運行する路線バスを基軸とし、桂浜を結節点として、当該路線を補完する支線路線の呉市の生活バス路線があり、「大向・重生線」, 「大迫線」, 「鹿島線」及び「長谷線」の計4路線が運行されている。これらは通勤・通学・通院・買物など、地域住民の日常生活に不可欠な移動手段である。しかし、生活バスは、1日を通して便数が少なく、夜間の運行が行われないなど不便な面がある。

④購買（物流）

かつては、各地区に小売店等店舗があったが、人口減少に伴い、少しずつなくなり、現在は町内に中規模のスーパーが2軒あるのみである。

⑤産業

主要な産業は、農水産業、製造業及び福祉介護事業であるが、青年層を中心に雇用の場が少なく、人口減の一因ともなっている。

⑥教育

かつては、町内に小学校14、中学校4校あったが、人口減（少子化）に伴い閉校が相次ぎ、現在は小学校2、中学校2校である。それによって児童・生徒に対して、通学等教育環境は悪化の傾向にある。

4 倉橋地区の将来像（10年後のまちのあるべき姿）

住んでよかった、住み続けたい、住んでみたい
輝く『宝島くらはし』
～人を大切にするまち「くらはし」～

5 計画の期間

2019（平成31）年度～2028（新年号10）年度
【～10年間～】

6 基本方針と具体的事業

出会うまち

助け合うまち

学ぶまち

働くまち

(1) 4つの基本方針

① 「出会うまち」

倉橋地区の自然環境、歴史と文化など多彩な資源を活かしながら、町内外の交流の空間を創出する。

現在の行事に加え、交流を目的とした新たな行事の創設を図るとともに、町内に散在する従来の交流拠点に加え、新たな拠点の設置を検討し、賑わいのある場を創出する。更に、道路網の整備や公共交通の利用を促進させ、移動しやすい環境を拡充する。

② 「助け合うまち」

人口減少が進む中、今後益々「高齢者福祉」「健康づくり」「地域防災（減災）」「交通安全・防犯」などが住民の安全安心を守るため必要となってくる。

そこで、住民相互で支え合う「互助・共助」の立場で、特に「福祉」「防災」「安全」についての支援の体制づくりを行う。

③ 「学ぶまち」

町内には、史跡・文化財・街並み等の文化財や文化的景観、また造船等の文化的遺産、各地区の伝統文化など多くの資源を有している。

多くの資源（お宝）を、環境保護も考えながら、住民一人ひとりが大切に保存するべきであることを認識し、次世代に継承するよう取り組んでいく。

④ 「働くまち」

産業（雇用）なくして地域の活性化はない。既存の産業や観光の振興を図り、新たな産業の創出と後継者の育成に努め、多くの人が働くことができるような環境を整備する。

上記4つの基本方針を具体化するため、宝島くらはしまちづくり協議会が主体となって、倉橋地区社会福祉協議会、倉橋地区自治会連合会、倉橋町女性連合会など各種団体と連携しながら、次の事業を進める。

(2) 基本方針の具体的事業（ は重点事業）

項目	事業名	内 容
出会うまち	漁港交流拠点構想（海の駅）	「海の駅」を中心とした漁港拠点整備
	市民庭園	桂浜地域内の公園の整備
	婚活	地区内の独身者と地区外の独身者の出会い
	朝市	地区の農産物や海産物の日曜日
	観光ボランティア	まちづくり全般、ジュニア（中学生）育成
	観光パンフレット	新規：観光名所、サイクリング、グルメ等
	真備町（倉敷）交流	旧町時代からの姉妹都市との交流
	宝島くらはしフェスティバル	実行委員会、産業（牡蠣）まつり
	あいさつ運動	女性会中心に保育所、小学校啓発
	定住・移住	Uターン、Iターン、空き家活用
	アクアスロン大会	実行委員会、遣唐使船まつりと同時開催
助け合うまち	ふれあいいいききサロン	各自治会単位での高齢者支援活動
	高齢者給食	女性会による独身高齢者への配食活動
	敬老会	各自治会での9月の敬老行事
	地域包括ケア	社会福祉協議会連携、地域での高齢者介護
	健康づくり	万葉の里健康づくりの会（※1）主催の行事等
	体育行事（体育協会）	元旦ウォーキング、駅伝大会等の行事
	自主防災会	自治会単位での結成促進と活動支援
	防災施設・訓練	防災倉庫整備、全住民対象の避難訓練、研修
学ぶまち	子育て支援ネットワーク	地域子育て事業、育児サークル支援
	遣唐使船まつり	実行委員会、文化と歴史の祭典
	文化行事（文化団体連盟）	文化まつり、講演会等
	子どもまちづくり（※2）	小学生、中学生対象、市からの助成金
	自然環境保護	海浜清掃、ゴミ拾いウォーキング（海くら※3）
働くまち	歴史ハンドブック（仮称）	倉橋の歴史・文化の冊子の作成
	くらはしブランド	特産物（農水産物、御影石等）のブランド化
	農地（休耕地）利用	新規：基本（実施）計画の策定後に実施
	農水産業の人材育成	農水産業に携わる若者のスキルアップ支援

※1 倉橋地区の運動普及推進協議会

※2 呉市子どもまちづくり事業（子ども自ら発案し実施する事業）

子どもチャレンジ教室（子どもに対して倉橋にないものを外で体験させる）

※3 「くらはしの海とくらしを守る会」（環境団体）と公衛協の共同



(3) 重点事業について

①漁港交流拠点構想（～出会うまち～）

年間20万人を超える来訪者のある温泉施設を核とした桂浜周辺を中心に漁業振興（漁業者）、海の駅、産直市場等、漁港施設の観光型の整備などの目的を達成するため、組織化された協議会が主体となって、事業を進めていく。

[主体：倉橋交流拠点構想推進協議会]



②地域包括ケア（～助け合うまち～）

これからは公的なサービスだけでなく「地域」の力を活用しながら高齢者を支えていく仕組みづくりが必要となる。

そのためには様々な生活課題について、住民同士の相互扶助（共助）で解決してゆくという姿勢が求められる。徐々に希薄となりつつある地域コミュニティの再生の意味も込め、保健・医療・福祉の切り口で事業を具体化する。

[主体：（仮称）倉橋地区地域福祉運営推進協議会]
（呉市社会福祉協議会）



③子どもまちづくり（～学ぶまち～）

倉橋地区の将来を担う子どもたちに対して、地域への愛着を育むため自分たちが発案、実施するまちづくり事業や、あるいは成長して外へはばたくための助けとなる事業など、側面的な支援を行う。また、子どもたちに、様々な形で、倉橋地区の歴史・文化・伝統などを知識としてわかりやすく習得する機会も計画し実施する。

[主体：宝島くらはしまちづくり協議会]



④農地（休耕地）利用（～働くまち～）

かつては山の頂上近くまで田畑は広がり、農業の盛んであったこの倉橋地区であるが、現在は耕作放棄地が随所に見られ、大きな問題となっている。これは、全国的な問題であるが、今後倉橋流の休耕地対策が具体化できないか事業を検討する。将来的に、何らかの形になれば就業にもつながることが期待できる。

[主体：（仮称）休耕地対策協議会] ←協議会設立の検討



(4) 各事業の実施計画期間（本計画終了：新年号10度末）

事業名	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	備考	
交流拠点構想	●	→									29年協議会設置	
市民庭園	▲	→										上半期で完了目標
婚活	▲	→										5年間で見直し
朝市	▲	→									(継続) 拡充検討	
観光ボランティア	▲	→									(継続) ジュニア育成	
観光パンフレット	●	→										31年度新規
真備町（倉敷市）交流	▲	→										5年間で見直し
宝島フェスティバル	▲	→									拡充検討	
あいさつ運動	▲	→									(継続)	
定住・移住	●	→										新規, 基本計画作成
アクアスロン大会	▲	→									(継続)	
いきいきサロン	▲	→									(継続)	
高齢者給食	▲	→									(継続)	
敬老会	▲	→									(継続)	
地域包括ケア	●	→										呉市社協と連携
健康づくり	▲	→									拡充検討	
体育行事	▲	→									(継続)	
自主防災会	▲	→									(継続)	
防災施設・訓練	▲	→									施設は31年度新規	
子育て支援ネットワーク	●	→									内容(具体案)検討	
遣唐使船まつり	▲	→									内容検討	
文化行事	▲	→									(継続)	
子どもまちづくり	▲	→										5年間で見直し
自然環境保護	▲	→									拡充検討	
歴史ハンドブック	●	→									新規, 編集企画	
くらはしブランド	▲	→										基本計画作成
農地（休耕地）	●	→										新規, 基本計画作成
農水産業の人材育成	▲	→									内容(具体案)検討	

- ・●は31年度以降の新規事業
- ・▲は30年度以前からの継続事業
- ・備考欄「見直し」は当時の状況を勘案して、実施主体や事業の廃止継続を検討する。



7 課題

(1) 人口減少

合併直後の平成17年3月末の人口が7,460人に対し、平成30年3月末5,346人、15年ほどで3割の減少となっている。ここ3年間をみても毎年100人余り確実に減少している。今の段階で、即効性のある対策は見いだせないが、今後次のようなことに留意して進めていくべきであろう。

ひとつ目は「住んでいる人を外に逃がさない」

そのためには、地域福祉（保健・医療・介護など）を充実させ、高齢にあるいは、単独世帯になっても居住可能な環境づくりとともに、防災・防犯・交通安全など常に安全・安心して暮らせるようなまちづくりが必要である。

ふたつ目は「外から人を呼び寄せる」

UターンやIターンにより人口を増やすためには、雇用・観光・教育・子育てなど、多くの要素でのまちづくりが求められる。また、空き家や休耕地などの利活用も実現できるよう努力を要する。子どもから高齢者まで、不便なく暮らせる環境の整備が大切である。

(2) 道路・公共交通

過去には、海路（船舶）での移動手段しかなかった倉橋地区であるが、現在は陸路の移動が主流である。

戦時中の負の遺産というべきか、あるいは島嶼部の共通する課題か、倉橋地区でも主要道路の整備が遅れ、災害時などには狭小な道路が通行不可能になる時があり、更に迂回路もなく、常に「陸の孤島」になる危険性が高い。

今後も主要幹線道路と共に、各地区内の生活道路の整備が急がれる。

また、路線バスなど持続可能な公共交通の整備も将来に渡って重要な課題であろう。

通勤や通学など自家用車やバスなどの公共交通での移動が便利であってこそ、すなわち道路や公共交通が整備されてこそ、定住につながるものと思われる。

(3) コミュニティー（地域共同体）再生

地域でのまちづくりを実現させるための重要な要素は「コミュニティー」である。最近では少子高齢化や核家族化により昔ながらの「コミュニティー」が希薄となっている。この倉橋地区も、かつて特に各浦単位の団結力が強かったが、人口減とともにいわゆる「コミュニティー不足」が課題となっている。

今一度このコミュニティーの再生を目指して、少ない人口の中で、浦単位のみならず、町全体では様々な工夫を凝らし、大きな行事だけでなく、普段の日常生活の中でのきっかけを作っていかななくてはならない。例えば、悩んでいる人は、周囲に遠慮なく「助けて」と声をあげ、元気な人は、周囲にお節介を施すなど、常に関わりを持つような姿勢が求められる。



そのような積み重ねにより、若者を対象とした次世代のまちづくりの担い手の育成や、外から目的をもってやって来る移住者などが、まちづくりに積極的に参加できる生活環境を整備するべきである。

8 終わりに

平成17年倉橋町は呉市と合併し、ほぼ15年が経過しようとしている。人口減少を中心に少しずつ衰退化しているのは否めない。そのような状況下で、今年度これからの10年間を見据え、まちづくり計画を改定した。

今回の4つの基本方針「出会う」「助け合う」「学ぶ」「働く」は、個々に分かれているものではなく、各方針の具体的に計画された事業を行うことにより、他の方針にも関連する、該当するという共通的な内容であると思われる。



そして、これからの10年間の倉橋地区のまちづくりの方向性としては、主に次の3点の項目についての環境の整備をつけ加えたい。

1点目は、「観光・交流機能」倉橋地区の様々な資源（お宝）の認識を高め、保存・拡大に努め、町内外に情報発信する。それにより多くの人の来訪を期待し、その人たちには楽しみ喜んでいただき、この町のファンになるような仕掛けを考える。



2点目は、「定住機能」新たに住む、このまま住み続けるという点に着目し、新たに住む人には、移住に関する情報発信や空き家確保などの受け入れ体制、また住み続ける人には、保健・医療・福祉をはじめ防災・防犯など、安全・安心なまちづくりを実感できるような方策を次々に実施するという心構えで取り組みたい。

3点目は、「産業・雇用機能」従来の農業・漁業の更なる強化に加え、やや困難であるかも知れないが、倉橋の地域の特性を活かした新たな産業の創出にも尽力したい。

それら3点を中心に様々な課題の抽出とその解決を行い、地域力の向上を目指して、しっかりと活動基盤を強化させなくてはならない。少しずつ厳しさを増す活動における資金（財源）も、十分考慮し、有効的に利用していくことが大切である。



多くの人が今、物の豊かさから心の豊かさを求めている状況を踏まえ、『地域づくり＝（イコール）人づくり』の視点に立って、この倉橋地区を少しでも活性化できるように、住民全体で、元気に取り組んでいきたい。

倉橋町の浦名（地区）



16 地区 2,305 世帯

浦名	読み方	世帯数	浦名	読み方	世帯数
本 浦	ほんうら	382	釣士田	りょうしだ	275
尾曾郷	おそごう	40	長 谷	ながたに	39
須 川	すがわ	183	尾 立	おたち	248
西宇土	にしうど	75	室 尾	むろお	315
大 向	おおこう	40	大 迫	おおさこ	40
重 生	しぎょう	70	海 越	かいごし	83
灘	なだ	51	鹿老渡	かろうと	66
宇和木	うわぎ	265	鹿 島	かしま	133

(世帯数は平成 30 年 4 月現在, 各自治会申告による)

宝島くらはしまちづくり協議会名簿

平成31年3月現在

会長	中田正志	学識経験者
副会長	里敏江	公共的団体の役職員
副会長	森本勝利	公共的団体の役職員
会計	奥久保清人	その他会長が必要と認める者
監事	宇和村静子	公共的団体の役職員
監事	宮西正司	学識経験者
委員	有田正弘	学識経験者（まちづくりサポーター）
委員	上瀬雅晴	学識経験者
委員	作田隆次	町内で活動している各種団体の代表者
委員	野田耕耘	公共的団体の役職員
委員	三戸田一樹	町内で活動している各種団体の代表者
委員	森本忠雄	公共的団体の役職員
委員	吉本圭介	学識経験者

13名

五十音順

事務局 〒737-1377
呉市倉橋町(オノ木)431番地
呉市倉橋市民センター
TEL 0823 (53) 1111

